

第2回 上郷高校跡地利活用方策検討会 会議報告書

1 日時

平成27年10月9日（金） 午後3時から5時

2 場所

つくば市役所5階 庁議室

3 出席者

（委員）大村委員，大島委員，坂本委員，光田委員，秋葉委員，土田委員，和田委員，岡崎委員，潮田委員，木村委員，浜中委員，須藤委員，星野委員，長島委員，栗原委員

（事務局）企画・国際課長，企画・国際課長補佐，企画・国際課担当者

（傍聴者）5名

4 内容

（1）開会

（2）あいさつ

（3）議事

① 前回会議で出された意見の整理について

② 人口推計及び廃校利用等の全国事例について

〔事務局より，資料について説明〕

（座長）

人口推計については，つくば市全体で言えばまだピークアウトにはだいぶ間がある。むしろ，つくばは茨城県の中でも人口がまだ伸びていく都市だということは確かだけれども，ただ地区別に見たとき，地元の上郷地区の皆様の印象はどのような感じかというのをご意見いただければと思います。

つくば市を地方都市と言えるのか分からないけれども，地方都市として一番大きな問題は，高校とか大学に進学し，東京など大都市圏に出た後，戻ってくることが非常に少ない。地元での雇用の機会がない。つくばの場合だったら，つくばは比較的雇用の機会が多いんですけども，上郷地区に育った者が，また上郷地区に定着するような構造になっているのかどうか。資料としてご呈示いただかなかったのですが，地区別に，小学校区単位で見たときにどうか。

地元の商店街のシャッター通り化が進んでいて，人々の生活スタイルが変わってきて，共働きが増えてきているとか，まとめて買い物をするとか，昔だったらモビリティが高くてなくて徒歩圏で買い物するのが普通だったのが，自動車を使え

て、なるべく品揃えが多い所に行ってしまう。そういう問題も踏まえて、皆様方から何かご意見、ご質問があれば出していただけたらと思います。

(委員)

私も上郷に生まれ育ってきましたけれど、うちの子供は大学は向こうで卒業した。その後こっちに戻っては来たいが、交通の問題とか、一番の問題は水で、心配だと言っていることはあります。やはり地域で住んでいる人たちに聞いても、水質が悪いという部分がありまして、若い人たちは中心部の方に行ってしまう傾向が見られる部分はあるように思います。

(委員)

私も生まれ育ってずっと上郷ですが、比較的、私の年代の同級生、さらに若い年代を見ても、上郷の人は地元に戻ってきている、地元に着定していると思うんです。世帯数は比較的、他から見ると空き家の件数も危機感を持つほどではなく、張り付いているのかなと思うんです。

(委員)

ここは意見が分かれる所かと思うんです。跡取りがいなければ廃棄となってしまいますから。そういう人口減少というか、家庭そのものが崩壊していくような状況にこれからますますなるんじゃないかという風に感じておるんです。

(座長)

統計的には、国勢調査の比較的狭い範囲で、基礎統計区というのがあるんです。そういうので経年的に、人口の年齢別構成というので、統計法ではコーフォートというのですが、どう変化してきているのか押さえておくと、どんな変化が起きてきているのか、地区での出入りはどんな感じなのか分かりますので、次回はもう少しミクロなレベルでの人口の動態はどうかという事を。

それからこの二十年くらいの間に商店が閉店に追い込まれていくとか、従来の小売店というのは成り立たなくなるというのは増えてきていると思うんです。商売が成り立たなくなったのを無理矢理やれとは言えない話ですし、あるいは後継者がいないとか。小売店の未来というのは、この問題を考えていく上での一つのヒントになると思う。

上郷地区にどんな状況がこれから起こるのかというのは、大きな枠組みで言えば、つくば市も豊里地区もまだまだ人口減少は激しくないし、むしろ日本の中で言えば健全な方で、つくば市全体で見ても高齢率はまだ低くて17%にもいかないという希少な例に近いんですけれども、バラ色の未来が描けるかどうかというのは、なかなか難しいと思います。

(委員)

郵便配達とかを見ますと、戸数は増えている。新築が増えているという状況で

す。若い人たちに話を聞きますと、近所との付き合いが大変、屋敷になると草取りが大変、そういうことでマンションが良い。マンションであれば、近所付き合いも何もしなくて良い。

それと、上郷の商店街もあれだけシャッターが降りてしまっている。そういうところで、今はあまりにも大型店が出来過ぎる。

今の若い人たちの場合には付き合うのが嫌です、やる前から大変だという答えが返ってくる。何を計画しても大変だから、やる前から大変だという。

(委員)

ちゃんと客観的なデータをいただきたいとは思いますが、私どもの大学は八割が県内から来ている学生でして、ほとんどが県南なんです。それも特徴的なことなんです、みんな県内に就職したい。求人は東京からたくさんあるんですが、受けに行かないんです。それが本学の大変な悩みで、就職率が上がらないのも県内に仕事がないんです。ですから、私どもがとても心配しているのは、みんな18から20歳くらいの学生たちは、外に行っているいろんなことをしたくなくて、居心地が良い雰囲気になりたいのだけれども、大学側は、できるだけ東京や海外に行って経験を積んでとか言っているんです。一つの傾向として、若い方たちが、居心地の良い茨城県にいたいという気持ちはあるわけです。そこに何かチャンスがあれば、ちゃんと留まって働いていくんではないかということとはございます。

(委員)

私の地域の事例を申し上げますと、やはり長男とか兄弟では、屋敷の中に家を建てて住んでいるというのが見受けられます。子供がだいぶ少なくなりまして、祭りをやるなどと言っても、父兄が手伝ってやる。そうしないと、できないような状況なんです。

(事務局)

人口推計なんですけれども、各地区の推計ということで、豊里地区というのをどのようにとらえていくか、一つ問題になると思うんですけれども、現時点であるデータとしてお示ししました。豊里地区というのは、葛城地区のTX沿線開発エリアを含んでということで、つくば市全体の縮図みたいな、旧市街地もあり、開発地区もありと。豊里には、豊里の杜であるとか、開発に伴って東光台も活性化しているというようなことで、こういう山を描いているんですけれども、実際にもう少し違うデータを探せば、こういう山ではなくて、少し右肩を下げていくようなグラフになっていくのかなと考えております。

(委員)

具体的かどうかは別なんです、取引先につくば市内に野球のグラウンドを求めしてる企業がございます。その中で、上郷のこの状況も認知していた企業でし

て、場合によってはグラウンドを求められる。ただし、売るとかそういう前段の話で、具体的な話ではありません。金額やら条件やら、もしくはそれが売れる状況になるのか固まっていない状況ですので、それが正解として言えるのかどうか別なんです。

私見になるのですが、これだけの広い土地ですから、そこにA社が買ったとして、それまで使っている少年野球にも開放することができ、例えばこういう跡地利用の原資にして何かしらやるというのも、ビジネス的には一つの側面としてあると思うんです。あくまでこれは、そういう企業からどうなのかなという投げかけの状況なので、具体的に話せることではないのですが、そういう方法論も一つ、前に進めるときにはあるのかなというところです。

(委員)

地下水や井戸水が心配なので、違うところに住むという話がありました。資料を見ていましたら、参考資料2につくば市の配水管台帳がございまして、それを見ると、上郷高校の跡地付近にはそういうものが無い。今後、ここをどう使っていくかにもよるんですけど、水の問題は一つの大きな問題であるかなと思います。基本的には水は必要ですし、水の心配が地元の方にもあるとすれば、入ってくる方もある程度気にするでしょうから、この辺の地域への水道の計画がある程度固まっていれば、ご披露していただければ幸いです。

(事務局)

給水計画の台帳ということで、実線で太い線が配管されている線でございます。現状にいきますと、当該市街化区域とはいえ、上郷地区には上水道の配管がないという状況が見て取れます。どこまで来ているかという観点で申し上げますと、北側がテクノパーク豊里の工業団地、手子生という地域で、現在配管が完了しております。南側ですけれども、固まって細かく実線が見えます。これは上河原崎・中西の開発地区で、こちらの方も配管が終了しているということです。今後は、上水道の計画を市全体で検討しているところでございまして、全域が上水道の計画給水区域となっているんですが、具体的な配管計画というのはこれから進められていくというところでございます。

(委員)

豊里地区では、手子生の交差点までは上水道が来てる。私の住んでいる横町というのは戸数が44件で、水の質ということでは、色度がちょっと悪いくらいで、あとは全部適合してます。

(座長)

今回視察したところで、高等学校の本棟にあたる部分に関しては、耐震補強されて、内装とか話はあるけれども、現状でも使えないことはないということです。

ね。ただ、施設の試算で言えば、少し手を入れないと適正に利用するためのコストはかかる。逆に撤去するには相当なコストがかかるというお話でした。そういう面で言えば、廃校の利活用事例の中で、見せていただいた本棟部分は、スペースニーズに対応できるかどうかという問題はあったとしても、建物自身としては使いようによって、活用は可能だという判断は可能なのかなと思います。

(委員)

一番北の方のは結構良いような感じがします。全体的に前の方は錆も出てきますし、模様替えなどやらなきゃならないと思うんですけども、中へ入ってみた感じでは、結構使えるんじゃないかと思います。あの場所は広いので、分散させるとかも一つの手だと思うんです。建物の方は、学校あるいは医療関係などやっても良いでしょうし、表の方は子供たちが野球とかもやっていますので、そういうのも維持しながらやっていけるようなところであれば。昔、農業をやっていたところですから、第6次産業も踏まえてやれば活性化になるんじゃないかと思います。壊すのでもお金がかかりますので、そういうことも踏まえると、公営か民営かということはあるんですけども、あまりお金がかかっては二の足を踏んでしまうということになると思うので、考えていかなければならないかなと思います。

(委員)

深掘する前にもう一度言わせて下さい。今日、皆様は現地を視察して、上郷高校跡地がどういう場所にあるかお分かり頂けたと思います。高校跡地の周囲には、上郷小学校、昔は上郷中学校、今は幼稚園、保育所、更に児童館がある。言ってみれば、歴史ある文教の聖地であり閑静な地であります。上郷高校は、元来歴史ある農業高校として歩んで来た経緯があります。そこで、バイオやITを取り入れた農業学校にしたらどうでしょうか。今や農業と言えどもIT時代であり、ITを使った農産物栽培を、企業が農業事業として立ち上げたと言う話がマスコミで話題になって報じられている。学校として立ち上げた場合に、授業はもとより、実習としてITを使った栽培施設を造り、そこで実体験してもらおうと同時に、荒廃農地や農地で地域の農家と連携して農作物を作り、出来る事なら販売までも手掛けることが良いと思う。そうすることにより、周辺になじみのある土地利用が出来、地域民との交流もでき、絆もでき、町おこしとなり地域活性化につながると思います。そして、10年、20年先を見据えた最先端の学校を目指せば、日本はもとより発展途上国からも生徒が集まると思います。そして、必要があれば、寄宿舎を造って全寮制システムでも良いのではないかな。

今後、何十年か先には、世界的に食糧難の時代が来ると叫ばれていることもあり、必ず生徒は集まると思います。学校設立は、市で資金困難ならば、市が昨今、

盛んにIT栽培を手掛けている企業とタイアップして行ったらどうでしょう。

私は結論として、都市計画法に基づいたインフラ整備を進めると同時に、文教の聖地は文教の聖地としての役割がある、文教分野関係の施設を誘致して欲しいと念願しております。

(委員)

市民の方々、様々な団体の方から要望をいただいておりますので、いくつかご紹介したいと思います。

既にあれだけのグラウンドの草取り、土を入れたり碎石を入れたり、管理いただきながら使用しているのは、サッカーと野球で2チームある。そういった方々に関しては何らかのかたちで、一括して使うから即立ち退いてくれというのではなく、代替えを探るか、あるいは一部を運動施設に残していただくことも考えていただければと思います。もう一つ、県で考えることではあるんですけども、特別支援学校が、栗原地区、大穂にありますけれど、定員を大幅に超えている、手狭になっているという、悲鳴をあげているような状況です。私も身近に伺うような機会がなくて、身近に障害の方がいらっしやらないと意識が薄れている状況なのかなと残念ながら思っている中で、一步進めると、必要性というのは高めなければいけない。そういった中で、上郷高校跡地も含めて考えながら、場合によっては、4階建てですが上がったたり下がったりするエレベーターがありませんか、いろいろなことも考え、もしくは支援学校については別な代替えを考えながら、この場で意見をまとめていただいて違うところに提言をするようなことも含め、要望をいただきましたのでお話しさせていただきます。

最後に、教育施設というのは地元としてはいろんなご意見ある中でありますけれども、ひと・まち・しごと有識者会議の中で、傍聴させていただきながら、つくば市の将来をいろいろと考えたときに、農業を何らかの大きな柱の一つにという発言を多くの方々がしておりました。そういった中で、もともと農業学校でありましたし、何かそういったかたちで残しながら、新しいまちづくりの中で取り組めることがあればというところです。

(委員)

ひと・まち・しごとの有識者会議の中で、確かに農業でやっていくべきだというご意見ありました。もちろんそれはみんな賛成しているんですが、研究学園都市というからには、従来型でなくて、ここだけができる研究学園都市のノウハウを利用したものがあるべきでないかというところで議論が終わっておりまして、具体的に何というところまでは来ておりません。例えばITを使ったというのは、都会のビルの中でLEDなどで農作物を作っているというのはあるわけですが、上郷高校の跡地は普通の土地なわけです。

もう一つ、学校を経営するというのは、ものすごくお金がかかります。特にIT環境を整備するというのは、大変なお金がかかることなので、校舎があれば良いというものでもない。グラウンドをどこかに買ってもらってそのお金でとか原資がないと、県や市は助成しないでしょう。もう一つ、私が心配しているのは、政府のまち・ひと・しごと創生委員会が、筑波研究学園都市に研究機関があれだけ集まっているのはけしからんということで、12の研究機関を日本中の県に誘致すると。

要するに、大きな視野で立って、どこと組むか、どこの研究機関と組むかというようなこともちゃんと考えて農業をやっていくと具体的にお考えにならないと。アイディア的には賛成しているんですが。

(委員)

例えばITの施設を作って事業と実習に使う、IT関係の勉強をです。だから、大がかりなIT産業で農作物を作ってという問題じゃなく、ITを使った授業をやるのに、小さな施設を作ってやるのはどうか。ITにはだいたいお金がかかると思いますけれども、IT企業とやったらどうかなということで、提案してみたわけです。

(座長)

産業化を考えるとしたら、市のマーケティングの問題とか、つくば市が持っている比較優位性、農水研があったり、筑波大も農業系の学部があるわけですし、つくば市内に立地しているいろんな先端産業の中で、そういうものに関心があるところと連携、具現化しないと、絵に描いた餅になってしまう。

(委員)

廃校ではない所沢の例なんですけれども、浄化センターの跡地ということで、角川株式会社が跡地約4ヘクタールの中に、図書館と美術館と博物館を融合した施設を建設した。民間の活用を含めた跡地利用という部分も、文化的な施設も含めて考えていただければなど。

もう1点、体育館の中に災害の物資が入っていましたが、やはり常総市で水害があったという部分を考えますと、防災の拠点というかたちでも利用できるんじゃないかと。

(委員)

農業のランドマークといいますか、何らかの施設という延長線の中で、学校関係か、農業を中心とした施設を。その中で、地域への波及効果という中で、障害を持った子供たち、若しくは高齢者がこれから増えていきます。農業は地面で、机上での計算通りにはいかない、やはりそれは経験に勝るものはないと思われますので、高齢者の農業支援を、ノウハウをいただけるような、そして子供たちや障害者など地域ぐるみの部分もご検討いただければと思います。

最後に、跡地利用の事例を考えますと、更地にしてしまっただけで、何かできるものを使いやすいように作るのが一番望ましいと思いますが、壊すだけでもかなり予算がかかりますので、実際の事例を見ますと、建物を再利用したようなかたちで取り組まれている。

(座長)

補足していただきたいのは、利活用した施設が市内のどの場所にあるか、立地条件によって全然違って来るんです。そこは大事な話で、角川さんが所沢にやられたって話も、辺鄙な所だとミュージアム的な機能はできない話になって、そこも含めて考えないと。今回の場合でも、もし相当集客性の高い、利用率の高い施設として整備するとしたら、アクセスをどうやって確保するかという問題に対応しなきゃいけない。先ほど懸念されていたような、水の問題に対してもどうするか、インフラ整備の可能性も高い。そうすると、長期間かかるとするのなら、その間のリードタイムの間だけ暫定的に利活用する暫定利用型で、いくつかバリエーションを考えていかないと、なかなか進まないのかなと思います。

(委員)

道路だけ先行できるのかは難しいと思いますが、跡地利活用の一つの案として、都市計画法に基づく市街化区域に編入する方向で、検討会で位置づけることはできないかと思います。現時点では、具体的な土地利用計画は何もできていないわけですから、大変無理があると感じております。しかしながら、第一段階として、この検討会で位置づけをすることで、その後の整備に弾みがつくのではないかと考えて、提案させていただきたいと思います。

通常使っている道路は歩道を含めて8メートルから9メートルで、大型車もすれ違えない。せめて10メートルはないと。県道のつくば真岡線と結びつくのが一番かと思うんです。アグリロード、農免道路からの3キロメートルほどの道路をアクセス道路として、この検討委員会で位置づけて方向性を決めれば。

(委員)

市街化区域を飛びで設定することは不可能ですので、ここを市街化区域にするというのは、なかなか認められないところだと思います。あとは、都市計画の手法の中で、都市計画施設といいまして、文教施設であれば、学校であるとか研究施設であるとか公園であったりを都市計画として定めるということも、可能性としてはあります。ただ、何の目的もなく先に決めてしまうということは不可能ですので、きちんとした計画が成り立った上でないとできないと思います。計画が成り立った上で都市計画施設を作るという時には、アクセス道路も必要になってきますので検討するという流れになるかと思います。

先取りで何かできるようにしてしまおうというのは、都市計画の中では難しい

かと思います。

(座長)

上郷跡地とかその周辺も含めて、文教ゾーンのエリアを新たな都市施設として位置づけるとか、文教施設の観念をもう少し広めて考えると、民活型の研修的な機能も含めたものとしてあるとかと考えたときに、プロジェクトとして、一体のものとして接道を整備するという考え方はなくはないかなという気はします。

③ 利活用の方向性について

〔事務局より、資料について説明〕

(委員)

資料に廃校の利活用について並んでいるんですが、滞在型市民農園のクライנגアルテンの例は学校跡地を利用したわけではないと思うんですが。もしクライנגアルテンをやるとしたら、既存建物の活用はできないことになるのですが、これはどういう理由でクライングアルテンの例が出ているのでしょうか。

(事務局)

前回、少し間口を広く委員の皆さんからご意見をいただいた中で、市としてどう考えていくのかという方向性がほしいとお話がありまして、検討会の第1回でいただいた意見を整理し、社会ニーズという言葉に少し重きを置いて、利活用を検討していくべきだろうと考えております。その中で、滞在型市民農園なんですけれども、高齢化社会に向けて、高齢者の方の余暇活動という面では、社会的ニーズはこれから高まっていくだろうということで、この中に入れてあります。

現在、利活用施設案というものを出した時点では、検討する際のポイントは人口減少、少子高齢化、地方創生という段階で案を出させていただいて、この段階で考えられる施設ということで上げております。

事務局といたしましては、いろいろな利活用施設案の他に、委員の皆さんに意見をいただきながら、第3回で上郷地区の特色・位置づけとか、土地の分割活用あるいは既存建物の活用の可否の網をかけて、再度お示ししたいと考えております。

現時点では、建物を活用すること前提ではなく、活用するか否かというのは別の問題として、もう一段先に置きたいと考えております。

(委員)

私が提案したいのはミニ工業団地なんですが、地域振興で地域が活性化するような、雇用が創出するような施設ということで、若者がそこに居住して働けると

良いのかなと思います。同じものを一括ということではなくて、土地をよく見た中で、利用した方が良いんじゃないかと考えております。

(座長)

条件整理の中で少子化とおっしゃっているんですけれども、諸都市に比べれば、つくば市の場合はドラスティックに高齢化・少子化が進んでいないという感じなんですよ。少子化になると需要が減っていくだろうという言い方があるんですけれど、逆の側面もあって、子供の数が少なくなればなるほど、子供の教育に対する関心とか、子供の将来への関心は高まって、特色ある教育とかいろんなことをやってもらえる施設に対してはお金は払おうという人は増えてきつつある。非常にユニークで特色のある教育施設であったりとか研修施設であったりとか、いろんな機会を学べる広い意味での学びの施設ができた場合には、あり得るのではないかなという気がしているんです。もちろん条件整備とか何かしなければならぬけれども、少子化＝需要がないというステレオタイプの考え方だけではまずいのではないかなという気がしています。

意見の整理をしますと、もともと農業高校であったという経緯を活かした形で、新しい時代に見合ったITとか先端産業を上手く融合したような教育施設の可能性はないかというお話がございました。その際に考えなきゃいけないのは、つくばが持っている農業分野に関しての筑波大学とか農水研とか、他の地域にはない特色というのをどこまで活かせるのか。また、つくば全体は産業立地としての可能性は高いと言われているんですけれども、どこでも土地があれば来るという訳でもないし、どういう条件だったら来たいのかということは精査された方が良いのかなという気はします。

もう一つ、廃校後も含め、グラウンドを地域の方々が愛着を持って使われてきたという経緯があります。その経緯を無視して、もし何か違う土地利用とかで使いたいとなったときに、今までの継続的な利用についてどう考えるのかもしなきゃいけないし、防災備蓄倉庫的な使い方をしていたというのを代替する機能をどこで担うのか。いくつか条件を考えて、もう少し整理しなくてはならない課題は何かというのを詰めていくと、次のステップで少し地についたアイディアになっていくんじゃないかと思いますので、つくば市の関係部局とか他の機関とも、情報整理されながら調べていただけたらと思っております。

(委員)

資料の中に滞在型市民農園の話があったので、関連してなのですが、笠間のクラインガルテンは県内で初めての宿泊型施設で、引き合いは高い、需要は高いと伺っております。そうした中で、現在つくば市には宿泊型はないんですが、市民農園としては3カ所ございます。ここの利用率は、高いところでも約5割という

のが現状でございます。その他は4割、場所によっては15%という状況です。これは日帰り型で、農地を区切って貸し出したりという状況でございます。それからもう一つ、企業誘致の話でございます。現在、圏央道が成田までは直結しましたし、西側についても現在整備が進められているという状況です。それを見越して、結構引き合いは来ているというのが現状でございます。特に物流系がインターの近くに。ただ、この中で課題となりますのが、もちろん値段が課題ではあるんですけども、交通インフラ、駅に近い、あるいは幹線道路に面している、こういうところが引き合いの順位としては一番高くなる。それからつくばの中心地区から外れるほど、どうしても引き合いは弱くなる傾向にあるのは事実でございます。

(委員)

あまりにもアクセスが悪い。散々お話が出ていますが、インフラが整備されていないと、誰も来ません。現実的に考えますと、労働人口だけが減ることは分かっている、専門学校などでも真剣に考えているのが、介護士、看護師の門戸が外国人にも開かれ、就業ができるようになるので、アジア人などを集めて、宿泊施設を造って資格を取らせる。そういうことを考えている方々は結構いると思います。つまり、教育施設であれば、寮があって、何かを教えるのであればこの場所は十分であるし、現在のグラウンドは市民の方たちがそのままお使いになれると思うんです。ですから、農業とか介護とかそういうものを、日本人だけではなくて、これから労働力になってくれるような人たちも含めて教育する。そうするとあの建物でも十分なのでは。5年10年先じゃなくて、今の2、3年先のことを考えたなら、そういう活用法はあるのではないかと。留学生を教育するようなことも良いのかなと思いました。

(座長)

これも場所によるんですけども、千代田区で結構人口減少が起きてきた時代に、廃校になったところを公的じゃなく、民間の機関がビジネスとして採算が出てきているという施設があります。それも含めて、例えば、つくばの若い人、筑波大とかの学生さんもそうかもしれませんが、ローコストで、だけど空間を豊かに利用してやっていくような暫定利用的なやり方でリードタイムを取っておいて、その後、本格的に考えていくとか、物事を全部、オールオアナッシングで考えるのではなく段階的に考えるとか、時間を置きながら考えていく。成熟してきた利用度が高まってきたら、アクセス道路整備の必要性も高まっていく。今の時代に、先行きも分からないのにアクセス道路だけ整備しなきゃと言われても、なかなかできないです。自治体も財政が豊かではない。いくつか都市計画道路の優先順位も決めているわけですから、こちらが先にとはなかなか行けない時代です。

ので、そこも考えなきゃいけない。この方向性を最後にどうするかというのも悩ましい問題だと思うんですけども、少し時間の中で考えていかないと、問題は解決できない。今日明日中に、来年までにというのはなかなかできない話だろうと思います。

(委員)

国際都市つくばという中で、外国人のためのハイスクールというのはどうなのでしょう。

(事務局)

インターナショナルスクールにつきましては、上郷高校跡地に興味を示した時期はあったんですけども、施設として大きすぎるということがございました。一時お話はあったのですが、全部は使えないということではありました。

④ その他

(事務局)

次回、第3回の会議日程でございますけれど、12月24日の木曜日、午後1時30分から市役所庁舎5階庁議室で開催したいと思います。

(4) 閉会